

支倉常長フェロー報告書

提出日 2012年12月19日



申請者	氏名	中 眞 治
	所属・職	血液・免疫病学分野 医員 (博士課程修了)
出張期間	2012年 12月 7日 ~ 12月 12日	
渡航先	米国アトランタ	
渡航目的	学会参加・共同研究のための留学・( )	
発表演題名あるいは共同研究課題名	Induction of thymic stromal lymphopoietin in mesenchymal stem cells by interaction with myeloma cells	

得られた成果など

2012年12月8~11日にアメリカのアトランタで開催されたアメリカ血液学会に参加し、ポスター発表してきました。本学会は、血液学に関わる世界中の基礎研究者・臨床研究者が最新の知見を幅広く報告する、この領域で最もレベルの高い国際学会の一つです。初めての国際学会参加であり、会場の規模と人の多さに圧倒されました。

発表内容は多発性骨髄腫における骨髄微小環境をテーマにしたものです。骨髄微小環境は、造血幹細胞だけでなく骨髄腫細胞の増殖や生存にも重要な役割を果たしていることが明らかとなってきました。私たちは、骨髄腫細胞との共培養により多数の分子が骨髄間質細胞に誘導されることを確認し、そのなかで TSLP (thymic stromal lymphopoietin) に着目し研究を進めました。TSLP は骨髄腫細胞の生存、増殖への直接的な作用はないものの、樹状細胞を介した Th2 細胞の誘導効果を認め、骨髄腫細胞が周囲の免疫環境を修飾することで自身の生存を有利にしていることが示唆されました。これは、骨髄腫微小環境において腫瘍細胞の生存を有利とする新しいメカニズムとなります。

本学会では、自身の発表での討議のみならず他者の発表によっても様々なアドバイスや知見を得ることができ、また、造血器腫瘍を中心とした臨床に関する最新の知見・トレンドもたくさん学べました。今後の研究・臨床の視野を広げる大変有意義な機会になりました。

